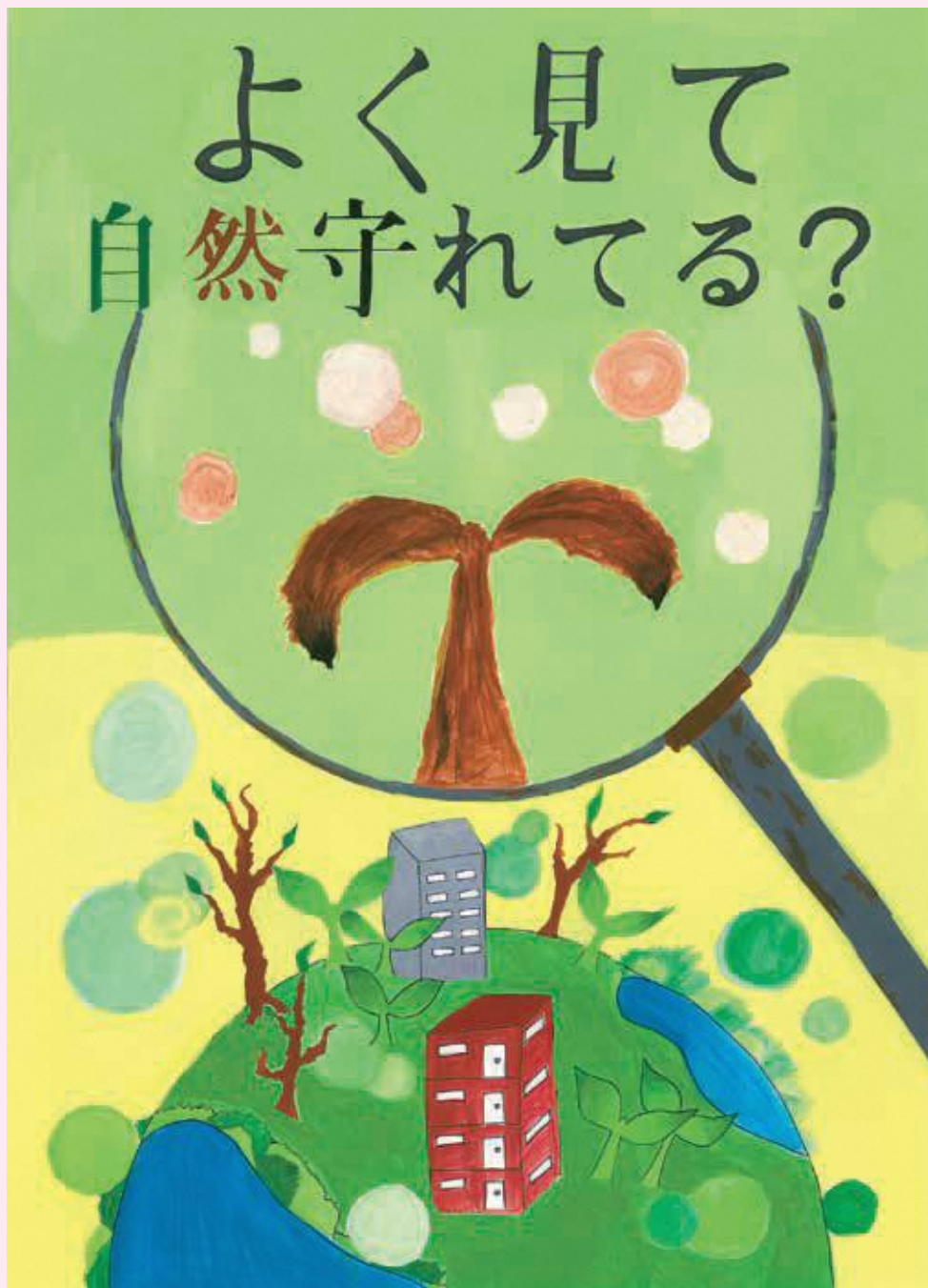


こんにちは

魚沼市議会です



令和3年第4回定例会 No.76



湯之谷中学校 2年 馬場菜々美さん

CONTENTS

臨時会・定例会・補正予算・議案賛否の状況 … 2～3
一般質問 …………… 4～10
聞かせて！あなたの声「Voice」 …… 11

中学生議会を開催しました …………… 12～14
常任・特別委員会報告 …………… 15～17
市民の声を聞く会（議会報告会） …… 18～19
市民の声・わが校自慢・あとがき …… 20

〈発行責任者 議長 関 矢 孝 夫〉 広報広聴特別委員長 大 桃 俊 彦 副委員長 大 平 恭 児
委員 横 山 正 樹 浅 井 宏 昭 遠 藤 徳 一 渡 辺 一 美

新年の挨拶



議長 関矢孝夫

市民の皆様、明けましておめでとうございます。

市民の皆様には、日頃から市政に対する温かいご理解と絶大なご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

私ども魚沼市議会は、昨年6月に行われた市議会議員選挙により、2名減の18名の議員で活動を行っております。議員一同、ここに新年を迎え、本市の一段の躍進を期して、清新の気がみなぎるのを覚えます。

現在の社会経済情勢は、国際化、情報化、少子・高齢化が急速に進行しております。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響や地球温暖化による異常気象などで、半導体など各種資材の不足、肉・野菜の価格高騰、及び灯油やガソリン価格の上昇など日常生活に大きな影響が出ております。このような時にあたり、本市においても克服すべき多くの課題を抱えており、行政需要はその量・質ともますます複雑多様化するなど、誠に厳しいものがあります。

私ども議決機関といたしましては、より豊かな住みよいまちづくりを目指して、今後さらに工夫を重ね、市民の皆様方のご期待に応えるよう決意を新たにしておりますので、どうか本年も相変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

第3回臨時会・第4回定例会報告

令和3年第3回臨時会が11月30日に開催され、市長提出の魚沼市職員の給与に関する条例の一部改正のほか2件と議員提出議案の魚沼市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正についての4件を可決しました。

令和3年第4回定例会が12月2日から12月23日の22日間の会期で開催されました。議会初日に、一般会計補正予算(第7号)をはじめ6件の補正予算を可決しました。12月8日と9日には14人の議員が一般質問を行いました。最終日には、追加で提案された一般会計補正予算(第8号)、各委員会付託の議案等、議員発議の北朝鮮による拉致問題の早期解決を求める意見書の提出についてすべてが原案可決となりました。

また、「コロナ禍での米価下落対策と生活困窮者への食料支援策を講じ、食料自給率の向上を求める意見書の提出について」の請願は不採択となりました。

第4回定例会補正予算

		補正前の額	補正額	計	主 な 内 容
一般会計(第7号)		302億4,040万円	9億1,540万円	311億5,580万円	歳入:国・県支出金の増額又は減額、ふるさと寄附金及びふるさと結基金繰入金等の追加、財政調整基金繰入金の調整など 歳出:給与改定、人事異動などに伴う職員給与費の調整、ふるさと寄附金追加に伴う関係経費、3回目の新型コロナウイルスワクチン接種費用など
一般会計(第8号)		311億5,580万円	6億4,460万円	318億40万円	歳入、歳出とも住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金給付事業費の追加および子育て世帯への臨時特別給付金給付事業費の追加
国民健康保険特別会計(第1号)		31億9,400万円	5,260万円	32億4,660万円	歳入:前年度決算に伴う繰越金の追加など 歳出:前年度保険給付費負担金の精算などに伴う県への償還金の追加など
介護保険特別会計(第2号)		52億2,750万円	0	52億2,750万円	年度途中において不足が見込まれる事業について組み替えにより対応するもの
ガス事業会計(第2号)	収益的支出		△60万円		人事異動・給与改定による給与費の調整
水道事業会計(第1号)	収益的支出		△560万円		人事異動・給与改定による給与費の調整
	資本的支出		△110万円		人事異動・給与改定による給与費の調整
下水道事業会計(第1号)	収益的支出		△40万円		人事異動・給与改定による給与費の調整
	資本的支出		10万円		人事異動・給与改定による給与費の調整

第3回臨時会議案等

◎=全会一致 ○=賛成多数で可決・承認・採択・同意、適任 ×=否決・不採択・不承認

議案番号等	付議事件	議決結果
議案第100号	魚沼市職員の給与に関する条例の一部改正について	◎
議案第101号	魚沼市特別職の職員の給与及び旅費に関する条例の一部改正について	◎

議案番号等	付議事件	議決結果
議案第102号	魚沼市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について	◎
議員発議第8号	魚沼市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について	◎

第4回定例会議案等

◎=全会一致 ○=賛成多数で可決・承認・採択・同意、適任 ×=否決・不採択・不承認

議案番号等	付議事件	議決結果
議案第103号	令和3年度魚沼市一般会計補正予算(第7号)	◎
議案第104号	令和3年度魚沼市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	◎
議案第105号	令和3年度魚沼市介護保険特別会計補正予算(第2号)	◎
議案第106号	令和3年度魚沼市ガス事業会計補正予算(第1号)	◎
議案第107号	令和3年度魚沼市水道事業会計補正予算(第1号)	◎
議案第108号	令和3年度魚沼市下水道事業会計補正予算(第1号)	◎
議案第122号	令和3年度魚沼市一般会計補正予算(第8号)	◎

議案番号等	付議事件	議決結果
議案第114号	魚沼市過疎地域持続的発展計画の策定について(過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法第8条第1項の規定に基づき、議会の議決を求めるもの)	◎
議案第115号	指定管理者の指定について(魚沼市折立ふれあいの郷)(施設の管理を行わせ指定管理者を指定するため、議会の議決を求めるもの)	◎
議案第116号	指定管理者の指定について(広神野球場及び下条テニスコート)(施設の管理を行わせ指定管理者を指定するため、議会の議決を求めるもの)	◎
議案第117号	指定管理者の指定について(魚沼市国民健康保険入広瀬診療所)(施設の管理を行わせ指定管理者を指定するため、議会の議決を求めるもの)	◎
議案第118号	指定管理者の指定について(魚沼市国民健康保険守門診療所)(施設の管理を行わせ指定管理者を指定するため、議会の議決を求めるもの)	◎
議案第119号	指定管理者の指定について(魚沼市高齢者生活支援ハウス)(施設の管理を行わせ指定管理者を指定するため、議会の議決を求めるもの)	◎
議案第120号	指定管理者の指定について(守門特産品販売所)(施設の管理を行わせ指定管理者を指定するため、議会の議決を求めるもの)	◎
議案第121号	字の変更について(上原地区で実施している県営土地改良事業における換地処分を行うため、字の変更をするもの)	◎

議案番号等	付議事件	議決結果
議案第109号	押印省略の実施に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について(行政手続の負担軽減及びデジタル化推進による押印等見直しに伴い、所要の改正を行うもの)	◎
議案第110号	魚沼市自転車駐車場条例の一部改正について(自転車駐車場9カ所を公の施設として設置するとともに、所要の規定の整備を図るもの)	◎
議案第111号	魚沼市国民健康保険条例の一部改正について(健康保険法施行令等の改正に伴い、所要の改正を行うもの)	◎
議案第112号	魚沼市工場等誘致条例の一部改正について(過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の制定及び地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律の改正に伴い、所要の改正を行うもの)	◎
議案第113号	魚沼市都市公園条例の一部改正について(月岡公園の施設使用料の見直しに伴い、所要の改正を行うもの)	◎
議案第123号	魚沼市特別職の職員の給与及び旅費に関する条例の一部改正について(北部事務所において発生した職員の公金外現金横領及び非遵行為等、市民に対する信用失墜行為により、責を負う市長及び副市長の減給を提案するもの)	◎

議員発議第9号	北朝鮮による拉致問題の早期解決を求める意見書の提出について	◎
請願第5号	コロナ禍での米価下落対策と生活困窮者への食料支援策を講じ、食料自給率の向上を求める意見書の提出について	×

議案賛否の状況

賛否が分かれた上表の網かけの議案等について掲載

○=賛成 ●=反対 △=棄権 欠=欠席 -=除斥 ※=議長は議決に加わりません。

議案番号等	議決結果	合計		しんせいクラブ		日本共産党		みらいの風			緑 晴 会			魚沼大地クラブ		魚沼クラブ		会派所属なし		
		賛成	反対	渡辺一美	富永三千敏	大平恭児	佐藤達雄	大桃俊彦	浅井宏昭	星野みゆき	森島守人	佐藤敏雄	佐藤肇	本田篤	志田貢	横山正樹	星直樹	遠藤徳一	桑原郁夫	高野甲子雄
請願第5号	不採択	4	13	●	●	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	○	※

魚沼市議会 公式YouTubeチャンネル をぜひご覧ください

市議会の様子がYouTubeにてご覧になれます。より開かれた議会を目指し発信していきます。

ぜひチャンネル登録をお願いします。





森島 守人

魚沼市の農業政策を問う



問 家族経営など小規模農家への政策をどのように考えているのか。

答 家族農業経営についても、地域農業の担い手として重要と考えている。

問 行政がリーダーシップを発揮し、農地の所有者と担い手の間に入り、農地の分散解消のため農地の集約を進めるべきと考えるが、今後どのように進めるのか。

答 将来を見据えた場合、とても重要なことであると認識している。今後、集落内での担い手の育成とともに、小規模農家同志の経営を合わせて組織化するなど、集落営農を維持・継続していくための方策として「集落営農組織形成支援」を検討していく。そうした取組とともに、中山間地域直接支払制度などを組み合

わせながら農地の分散解消に努めていく。

問 令和元年度以降の圃場整備事業について、計画要件では、面積の2割を園芸作物の品目で対応しなければならぬとの通知があったと聞いている。非常に厳しいハードルであり、この制度に対する市の考え、支援はどう考えているか。

答 園芸作物の導入は、当地域にあった品目の選定や冬期間作業など課題が多いことを認識している。新潟県にはそうした状況を説明しながら、行政としてできる支援について関係者、関係機関と研究していく。



浅井 宏昭

灯油価格高騰の今、助成の拡充を



問 石油製品の高騰が相次ぎ、助けを求めている市民が多く存在する。高齢者をはじめとする非課税世帯などを対象に灯油代購入費として助成してはどうか。

答 非課税世帯等を対象とした灯油購入助成は補正予算で可決されたので、今後速やかに対象世帯に対して助成の事務手続きに入りたい。

問 今冬の灯油の値上がりは市民にとって大打撃となるが、市長はどう考えるか。

答 基本的に灯油の価格は雪国では負担になる。今後、基準を精査していきたい。

問 青森県南部町は、受験生がいる世帯への灯油購入支援として1世帯3万円を給付することを検討している。魚沼市も対策を打ってはどうか。

答 今現在は生活困窮者等に助成を考えているが、それ以外の市民の方にもどうやって支援ができるかということも研究していきたい。

問 飲食店、宿泊施設、温泉施設、スキー場、農家など灯油を大量に使用する業種にも助成の拡充をして助けてやれないか。

答 直ちに市独自の支援策を行うことよりも、既存制度の活用や相談窓口を利用することを勧めたい。ただし、今後の原油価格の推移によっては適切な対策を講じるようにしたい。

ICTを利用する環境について

問 魚沼市はICTを取り入れた授業を導入し、タブレットを利用した授業などに取り組んでいる。市でもポケット型WiFiの貸し出しを行っているが、家庭の事情によってはWiFiの契約料が負担となる家庭もある。家庭に負担をかけることはあってはいけないが市長はどう考えるか。

答 今後のオンライン授業の進捗状況によって就学援助制度の費用に加えられるか検討していきたい。



遠藤 徳一

人道支援米買取り施策 に取り組まないか



問 コロナ禍による収入減等で米等の食料を食べることもできない人たちが増え、日本でも相対貧困率が問題となっている。

「お米のふるさと魚沼市」として独自の施策で米の買付けの予算化を図り、貧困対策や生産者支援に取り組まないか。

答 米に限らず農産物の規格外品等を、フードロスの観点も踏まえ提供できる仕組みづくりを関係機関等のご意見を伺いながら検討していく。また、食味や品質、付加価値の向上など様々な角度から魚沼ブランドを高めていく取組を講じていく。

問 市のトップセールスとして政府に対し人道支援米買付けを働きかけないか。

答 米価下落対策に重点をおき施策を展開していることから規格外品などを活用した貧困対策の仕組みづくりを検討していく。

小出郷図書館の今後について問う

問 今後「仮称生涯学習センター」

としてその役割を担うことになるが、単なる公共施設としての捉え方でなく、ほかの既設公共施設と併せ、面で捉えたまちづくりの核となるよう設計に反映すべきと考える。

面的な要件をプロポーザル参加の設計事務所等に提示したか。

答 面的な視点を含んだ技術提案とともに経験豊富な講師等からワークショップの運営も含んだプレゼンテーションをしていただく予定。

問 専門家を交えたりノベーションスクールを開講してはどうか。

答 エリアの価値が向上した事例があると聞いている。ワークショップの中で出される様々な意見も参考とし検討を進める。

問 エリアリノベーション支援を行政が行わないか。

答 まずは様々な立場の方からご意見をいただき、地域の合意を得ながら地域のにぎわいにつなげるよう進めていく。



星野みゆき

小中学校におけるICT 教育を問う



問 現在の学校の授業での利用状況はどのようなものか。

答 小学校では、毎日利用している学校が4校、週に数日程度が5校。中学校では、毎日利用している学校が2校、週に数日程度が3校である。

問 利用状況についてかなりの差があり平等性に欠けるが、教育長の考えはどうか。

答 各学校によって使用頻度に違いができてきている。今後は情報共有をしながら格差がなくなっていくよう取り組むことが大事である。

問 夏休みの端末持ち帰り状況はどうか。

答 中学校では3校、小学校では1校が持ち帰った。

問 持ち帰りを行っていない学校は、積極的に持っている学校からノ

ウハウを学び、活用すべきではないか。

答 情報を共有しながら遅れている学校も取組が進むよう、取り組んでいきたい。

不登校問題の現状と取組について

問 不登校の児童生徒の割合及び要因はどうか。

答 10月末において小学校では継続が3名、新規が1名、計4名で0.28%。中学校では継続が20名新規が15名、計35名で4.05%。要因は、コロナ関係による不安、生活習慣の乱れによる無気力状態、うつ病などの診断の増加、家庭環境の変化の4点が大きく考えられる。

問 いじめによる不登校はないか。

答 児童生徒との面談、保護者との話し合いの中では、いじめによる不登校はないと理解している。



横山 正樹

地域おこし協力隊導入の成果と課題、今後の展望について問う



問 平成26年度から地域おこし協力隊を導入している。その成果と課題・今後の展望について市長の見解を問う。

答 地域おこし協力隊制度で商品開発や地域が元気になってきたこと、任期終了後には本市に残りそれぞれの立場で活躍していること等、移住定住施策にも成果が出ている。退任後の定住率を上げることが課題である。商店街の賑わいを創り出すための募集は、多角的に取り組んでいく必要がある。

「郷土愛の醸成」の施策は

問 将来を担う子どもたちに郷土愛を培うための具体的な施策について市長に問う。また、教育委員会は「郷土愛の醸成」をどのように受け止めて具現化するか、教育長の所見を問う。

答 自然に親しみ、楽しみ、時には厳しさも体感できる取組を進める。祭りや伝統芸能、文化財や食文

化、スポーツ体験などを通して世代を超えた人とのつながりを深め、地域の素晴らしさを仲間と共有してたくさんの方の思い出をつくっていくことが郷土愛の醸成につながると考える。総合的な学習の時間や尾瀬学習等の貴重な機会を通して、魚沼市の魅力を体験することで本市への愛着や誇りが育まれていくと考えている。

気候変動禍における農業対策は

問 魚沼の自然界に気候変動の影響が出ている。この気候変動が魚沼市の農業に大きく影響すると推測される。市の対応について市長の見解を問う。

答 コシヒカリの品質向上を図るため、早生品種や新之助等の晩生品種による作期分散や、有機センターの堆肥等を利用した土づくりを推奨し、コメの品質向上に向け取り組んでいる。今後さらに温暖化が進んだ場合、食味、品質を維持し続けるためにどのような対策が必要か研究していく。



大桃 俊彦

データセンター建設を魚沼の地へ



問 政府はデータセンターを地方へ拠点を整備をし、ICT基盤の建設を加速させるとの報道があった。東京、大阪の大都市へ集中する中で、大地震等の大災害を考えた時、欧米やアジア企業から日本への立地条件等を探し求める問い合わせが増えている。魚沼市は中越地震に耐え抜いた強固な岩盤を有し、そして水害、火災にも強く雪冷熱など国が求める条件に最も適した地域である。建設誘致してはどうか

答 データセンター建設に適した条件が整った地域だと考えているので、誘致が可能かどうか検討して行く。

問 データセンター建設により、第2の工業団地として企業誘致し、大手企業の進出も可能であり、雇用対策、税収面にも大きく貢献できる。この機会を逃すことは、魚沼市において大きな損失と考えるがどうか。

答 データセンター誘致を否定するのではなく、先送りできない事業も抱えているので、併行して進めていくことになる。

中学生部活動の改革について

問 部員不足で合同練習の際に、会場までスクールバスの活用対応はできないか。

答 生徒の下校時の配車が優先となるため、時間・移動の経路・車台数の検討が必要である。

問 複数中学校合同チームとして出場が可能となるように中体連に申し出が必要と考えるがどうか

答 中体連には引き続き要望の検討をしていく。

問 今後は、総合型地域スポーツクラブを視野に入れた検討が、教育委員会主導で行う時期と考えるがどうか。

答 魚沼市中学校部活動検討委員会での検討と、今後スポーツ庁が進める休日部活動の段階的な地域移行等で、総合型地域スポーツクラブと部活動の係わりを含め改革を進めていく。



桑原 郁夫

市民の参画と協働による まちづくりの実現を



問 先月の新潟産業大学との提携セミナーの講演会においてもテーマとなっていたが、地域資源の活用観点から市民が資源を理解するため自然、歴史、食文化、芸術などに自然、歴史、食文化、芸術など、市民大学講座を通じ、総合的に魚沼市を官民協働で活性化させる考えはないか。

を一同に展示し市民に紹介する機会を設ける計画はないか。

答 一同に紹介する計画については、現在は計画していない。寄贈いただいた絵画は、目黒邸資料館、市内各施設で展示している。

問 多くの職人、芸術家、地域資源が魚沼市には存在しているが公共施設を再編する前に、市内外にアピールし、市民の学びと観光に役立てる考えはないか。

答 市民大学講演会テーマは、過去の参加者アンケートで要望の多かったものや、時勢に合った内容を参考に幅広い分野から選んでおり、今後も自然、歴史、民俗、食文化、芸術などの魚沼の豊富な資源の活用についてテーマ選定要素の一つとし、市民の参画と共同によるまちづくりの実現について取り組んでいく。

問 本庁舎にも早津剛氏の絵画が展示されているが、寄贈された50点

答 芸術文化の市内外へのアピールは芸術文化の振興のため、各種施設を有効活用しながら貴重な芸術作品にふれる機会をつくり、アピールしていく。また、市民が芸術文化に広く関わっていくため、教育・商工観光・福祉など各種団体と連携を深め、多様な芸術文化活動の創出に努めていく。



高野 甲子雄

「早寝早起き朝ごはん」 運動の提唱を



問 心身の健康には「朝ごはんをしっかりと食べる」といわれている。学校保健会の講演で、県内のある市では小・中学校生徒の9・2%がスマホ依存症であり、睡眠不足の心身への悪影響に警鐘を鳴らしている。子どもたちの心身の健康を守るため、「うまい水」と「魚沼産コシヒカリ」の市として、「早寝早起き朝ごはん」運動を提唱してはどうか。

介護人材の確保を

問 介護職の人材確保は給与の改善に尽きる。「基金」の組み換えなどで財源を確保し、介護人材の確保を図れないか。

答 介護事業所からの意見を基に、財源も含め必要な支援について、来年度予算に向けて検討していく。

問 朝ごはんをしっかりと食べることは1日の活力であり、子どもたちの成長はもちろん全ての世代において健康であり続ける基本と考える。朝食をとる重要性は各学校を通じて家庭や子どもたちに啓発していることと思うが、運動の提唱については、米の消費拡大にもつながることから、関係機関、関係者の意見を伺いながら検討していく。

中小河川内の樹木などの除去について

問 近年、三用川など里山への豪雨での被害が目立つ。市内の小河川の危険箇所などの把握と対策はどうなっているのか。

答 県管理の1級河川は大小の区別なく新潟県が巡回点検や調査を実施し、危険箇所の把握及び堆積土砂の撤去や樹木の伐採等対応している。市が管理する河川についても、要望内容の把握や現地確認を行い、危険度や対策必要性を検討後に地元と協議をしながら工事を行っている。



渡辺 一美

若者の市職員採用枠を増やすべきではないか



問 今後の新規採用について、課題をどう捉え、どのように計画を見直す必要があると考えているか。

答 若い人が市役所に勤められるように、再任用職員分を減らして、新規採用の枠を増やすべきではないかと相談を寄せられた。そこで、定員適正化計画について市長の見解を問う。

問 職員の年齢のばらつき、定年の引き上げや子育て・教育施策への対応等も踏まえたうえでの見直しが必要となる。また、年齢構成を標準化するため、毎年一定数の新採用を継続することも必要であり、事務事業の見直し、外部委託の推進など行政事務の効率化とともに、計画の見直しを進めていく。

問 会計年度任用職員は不安定な雇用形態である。正職員への登用、社会福祉法人・NPO法人等への業務委託など、会計年度任用職員のキャリアの継続、安定した雇用、所得の向上等について、どう考えるか。

答 経験年数による正規雇用は行

っていないが、民営化や民間に業務委託への検討を進めることにより新たな雇用が生まれ、所得の向上により、地域経済への波及につながることも考えられる。引き続きそれらに向けた検討・取組を進める。

原油価格高騰に対する支援策について

問 魚沼市は寒冷地であり、灯油価格の値上がりは魚沼市民全体が苦しい状況である。また、車が必需品である。先般の500円クーポン券と同様の仕組みで19歳以上の全市民対象に、灯油または、ガソリンで使えるクーポン券5,000円分を支援する魚沼市独自の家計への支援が必要ではないか市長の考えを問う。

答 要援護世帯に対しての支援は必要であると考えているが、そのほかの世帯への一律の支援については、現在のところ考えていない。今後の原油価格の推移によって適正な対策を講じることができるよう状況注視していく。



星 直樹

市内3スキー場の運営を問う



致ほどの程度あるのか。

問 グリーンシーズンで新たな取組を行うには財源が必要な場合があるが、市の方でどの程度負担するのか。

答 グリーンシーズンを活用することは、持続可能なスキー場運営を図るうえで必要であると考えている。各事業者から具体的計画が提示された際に、市としても運営に資する支援ができるか検討する。

問 今シーズン、3スキー場の小中学生に向けた共通シーズン券が発売された。今後、シニアが対象になることはないのか。

答 3スキー場の連携による新たな取組により発売されている。今後は各事業者において、市民・年齢に制限を設けない共通シーズン券の発行も検討していると伺っている。

問 市内3スキー場の今シーズン、新たな団体受け入れ、大会の誘

答 今シーズンは3スキー場の合計で市内学校16件、市外37団体のうち新規10団体の受け入れを予定している。大会誘致については、今年度須原スキー場で中越選手権及び下越選手権の2大会を実施するほかそれぞれのスキー場で大会等を誘致する旨の報告を受けている。

問 都内の小学生が授業の一環として魚沼市に滞在し魚沼の文化や伝統、そしてスキーを楽しんでいる。終了後にアンケートを行い、魚沼の魅力や不足点を聞き出しているか。

答 受入主体である魚沼市地域づくり振興公社で事業の検証と評価を行い、体験受入先へ意見や改善点をフィードバックしている。このことが体験メニューの品質向上や将来的なリピーター創出につながるものと考えている。



佐藤 達雄

スキー場の活性化と老朽設備更新を問う



問 市内3スキー場から提出された事業計画を市はどう評価しているか。各スキー場の索道施設や制御盤は経年劣化が進んでおり、製造中止の部品もある中、どう保守を行うか。

答 3スキー場がしっかりと連携した中で方向を決め、観光協会、魚沼市地域づくり振興公社、そして市が一体となって進めて行くことが重要だ。各施設の整備・更新計画は、事業者と索道メーカー、市との協議の中で、優先順位を考慮し、計画的に必要な部分の対応をして行きたい。

問 魚沼圏域地域医療調整会議の少人数での意見交換会は、開催されたか。メンバー構成はどのようになるか。その意見交換の内容は広く市民に公表すべきと考えるがどうか。

答 6月以降現在まで開催されていない。今年度末あるいは来年度初

めに開催予定で、メンバーは議論するテーマによって検討する。少人数意見交換会の討議内容は公表すると県から聞いている。

地球温暖化対策について

問 地球温暖化対策は喫緊の課題だ。全国の小中学校の30%程度が太陽光発電パネル等、再生可能エネルギー設備を設置しており、文部科学省も校内の年間エネルギー収支ゼロを推奨している。市でも小中学校の壁面を利用して太陽光発電パネルを取付け、環境教育とともに校内の電力を供給し、節電を図るべきだ。また、市民のリフォームによる窓の2重化や壁の断熱化も呼びかけて欲しい。

答 費用対効果も含めて、財政当局、環境担当の部署と相談して検討していきたい。窓の2重化や壁の断熱化による冷暖房費抑制についても市民に周知を丁寧に行きたい。



本田 篤

金融教育を取り入れよう



問 金融教育は、資本主義社会では必須と感じる。金融教育を取り入れてみてはどうか。

答 現在、小学校の家庭科の授業では消費者教育の充実が図られ、中学校の授業においても「売買契約の仕組み」や「消費者の基本的な権利と責任」、「消費者被害の背景とその対応」の基礎となる学習や、「市場の働きと経済」で、価格の動き、金融などの仕組みや働き、職業の意義と役割を学習している。このような学習を着実に行っていくことで高等学校での金融教育の学びにつながっていくものと考えている。

安定的な排尿動作を目指すために

問 日常生活において、衛生面の保持が難しいのが排泄行為である。特に、高齢男性は転倒など危険度が高い。近年、衛生面や安全面から座位での排尿行為が注目されている。健康増進の立場から、普及に向けて

の取組を積極的に推奨してみないか。

答 高齢化にともない、個人の日常生活動作については、安全面を優先して、本人に関わる支援者が転倒リスク等に配慮し、本人の意思等を確認したうえで選択いただきたい。

問 ETC2・0の社会実験(高速道路外の休憩施設等への一時退出が可能)を活用しよう

答 現在、高速道路からの乗り入れサービスは国内23カ所の道の駅で実証実験を行っている。地域活性化の可能性の観点から、魚沼市も手を挙げてみてはと考えるがどうか。

問 この実証実験は、対象施設の募集は行わずに機械的に選定しているとのことであり、現在は小出インターチェンジや深雪の里の利用を想定した一時退出は難しいと考えている。今後、インターチェンジ名称の変更を進める際に打診したい。



大平 恭児

補聴器の費用助成を求め



問 加齢性難聴の聞こえの問題は高齢者には切実で、認知症につながるといわれている。高額な補聴器は、高齢者にとって負担となっているが、助成を考えないか。

答 高齢者が他者との円滑なコミュニケーションを維持し、認知症予防につながることをできるように今後調査を進めていく。

問 補聴器利用の方は、クリアな音に聞こえる磁気ループが社会参加や健康に生活するうえで欠かせない。用途に合わせ様々なタイプもある。磁気ループ導入の考えはないか。

答 本庁舎の議場には設置しているが、その他の場所への設置については今後、研究していく。

福祉灯油助成について

問 市民生活は灯油高に苦しんでいる。長い冬を乗り切るためにも補正予算であげた、低所得者世帯に1世帯5千円の助成では足りない。増

額を行わないか。

答 過去にも同額で実施しており、現在のところ、増額については考えていない。

中小企業・小規模企業の振興について

問 コロナ禍では、中小企業・小規模企業振興条例に基づいた施策が一層求められる。それを推進する組織が必要だ。金融機関や関係団体、市民が入った協働組織を立ち上げないか。

答 地域経済活性化のための戦略的な行動計画として「魚沼市地域経済活性化アクションプラン」において、市内事業者や商工団体、金融機関、学識経験者を構成員とした「地域経済活性化協議会」が設置されている。新たな組織を立ち上げるといっても、引き続き地域経済活性化協議会からご協力いただきつつ、協働の意識を高く持ち、施策を展開できるように努めていく。



志田 貢

ツバメと共存できる社会を



問 ツバメの巣の保全と、フン被害解消の両立を図れるよう、保護と管理の両立に向けた取組ができると考えるがどうか。

答 野鳥は法律によって個体や卵の捕獲等または、採取等が禁止されている。卵や雛がいる状態の巣は許可がない限りフン被害解消のための駆除や捕獲はできず、自然な生態維持のためツバメの営みを見守ることが最善である。

問 改めてツバメは益鳥であるとの理解が必要と考える。市においても啓発活動が必要と考えるがどうか。

答 探鳥会、生物多様性調査、同セミナー等を開催し、意識啓発に取り組んでいる。

問 害虫駆除の先鋒としての位置づけで、ツバメが活躍できる施策も必要と考えるがどうか。

答 鳥獣保護の一環として自然の中で自由にのびのび生きていく姿を温かく見守っていくことが大切と考えているため、施策として取り組む予定は今のところ考えていない。

狩猟が身近な存在になるために

問 狩猟者人口の減少、高齢化が進んでいる。当市も、有害鳥獣による農作物の被害防止のため、補助金を交付するなどの取組を行っているが、狩猟後継者が少なく、狩猟技術の存続が危ぶまれている。いずれは人間が獣に翻弄される時代がやってくる可能性も否定できない。狩猟が身近な存在になるために、射撃場の誘致などを検討してはどうか。

答 新潟県猟友会が中心となり令和2年から新津クレー射撃場の隣接地にライフル射撃場の整備を計画している。本市も新潟県広域被害防止協議会の構成員として本計画を引き続き推進していく。

Voice

聞かせて！あなたの声

中原茶の間の会 × 市議会

地域で活躍する皆さんと、ざっくばらんに語り合うコーナーです。
今回は、1年2カ月ぶりに開催された中原茶の間の会にお邪魔してきました。



今日のゲームは、自分で考えて書く「くだものビンゴゲーム」

『地域の茶の間』を始めたきっかけは

中原地域でお茶のみ会をスタートしたのは、もう30年くらい前になります。当時の民生委員さんの呼びかけで、中原友愛ボランティアの会が30人位で発足しました。

発足当時はミニ宅老事業として昼食会を開催していました。その頃からの会員さんもいます。現在は男性5人女性9人のメンバーで毎月1回、『地域の茶の間』を開催しています。

活動内容について教えてください

地域の茶の間は、毎月第3金曜日に、中原公民館で開催していますが、11月は敬老会を開催します。

参加者は、毎回20人から30人くらいですが、時々参加する方も含めて35、6人いらっしゃいます。昨年はコロナウイルス感染症の影響でお休みしていました

が、休みの間も友愛ボランティアのメンバーが手紙や年賀状を出し、訪問して声かけをするなど互いのつながりを大切にしてきました。今日は久しぶりの開催で、元気に皆さんが集まってくれて嬉しいです。毎回、ちょっとしたゲームや軽い体操を行い、あとは和気あいあいとお茶のみをしながらの雑談です。

参加する皆さんの楽しみは何ですか

気の知れた地域の方と仲良くお茶のみをしながら『おしゃべり』に花を咲かせるのが何より楽しみです。

ほかの活動や課題は何ですか

中原友愛ボランティアでは地域の茶の間の活動のほか、社協の「ふれあい給食サービス事業」、やいろの里にゴミ拾いなどのボランティアに伺っています。メンバーの世代交代が課題です。

市議会に一言

中原の茶の間の会は、社会福祉協議会からの助成金（月3～4千円）を活用し、ボランティアが中心となり活動しています。しかし、参加人数が多い場合など、活動費が不足していることが悩みの一つです。また、ボランティアも高齢化してきており、新たなボランティア会員が増えないため、魚沼市と社協で検討し、担い手の育成や地域の支えあいの仕組みづくりを進めていきたいです。

市議会から一言

1年間のブランクを感じさせない楽しそうな笑顔があふれていて、高齢者の一人一人が力強いられる「地域の力」を感じました。社会福祉協議会にお聞きしたところ、現在市内69地域でボランティアの皆さんのお力により「地域の茶の間」が開かれているそうです。魚沼市全ての「地域の茶の間」が継続されていくように市議会として注視していかなければと感じさせられました。

令和3年度中学生議会を開催しました 中学生の視点で市政に提言



7月27日 魚沼北中学校での事前講義の様子。議員から「議会とは?」「一般質問作成のコツ」を学びました。

11月19日に本庁舎議場にて、中学生議会が開かれました。今年度は、魚沼北中学校3年生が議員を務め、8人が一般質問に登壇しました。
中学生議会は、中学生が地方自治について学習する中で、市政や市議会をより身近に感じてもらい、政治への関心を高めてもらうことを目的に開催しており、今年で5回目となります。
生徒の皆さんは、7月、事前学習を通じて夏休みから準備を始め、議会に臨みました。当日は、中学生ならではの視点で、学校の校則についてや、魚沼市をより良くするための提言を市長や教育長に対して堂々と述べました。

少子高齢化対策について



えのもと まさたか 榎本 雅隆 議員

問 今、魚沼市では少子高齢化が進んでいる。解決策として市はどんな対策を取っているのか。

答 出産、育児等子育て世代に対する支援の取組（医療費・保育料の無償化）、魚沼市で育った皆さんが戻ってきたくなるような「郷土愛」をはぐくむ取組（魚沼の魅力に触れる体験学習、学生への物的支援、情報発信）、住み続けたいという魅力ある就職場所の確保に対する支援の取組（人材育成・定住・就職促進に対する奨学金制度の創設等）を行っています。

魚沼市のまちおこしについて



なみかた しゅう 波形 柊 議員

問 1 まちおこしの取組は。まちおこしでアニメーションやドラマなどを使用して、観光地を紹介してみたらどうか。
2 近年増加している耕作放棄地の活用は考えているのか。

答 1 まちおこしに向けた取組の一環として、コシヒカリ・ユリなどをふるさと納税の返礼品として購入することにより、市内経済の活性化につなげています。
アニメーションやドラマは有効な手段であると考えています。これに加えて、おばたのお兄さんをはじめとした魚沼特使の皆さんなどとも連携し、魚沼市の魅力を全国にアピールしていきます。
2 今年度から菜の花など景観作物を植栽し観光誘客につなげることを期待しています。

教員の労働時間について



さとう こうき 議員
佐藤 倅希

問

学校の先生の長時間の労働時間についてどのような対策に取り組んでいるか。小学校よりも中学校の先生のほうが、月の残業時間が60時間を超えている割合が高いが、この現状をどう捉えているか。

答

市内共通の学校事務支援ソフトを導入したり、保護者の皆さんにご理解とご協力を求めるなど事務の軽減と効率化を進めています。小学校と中学校では単純に比較はできず、教職員の働き方改革の目標に向かって、学校、教職員が改善の意識をもって、全体的に減らす努力をしていかなければならないと考えています。

学校の校則について

問

憲法にのっとっていない校則をなくしていただきたいと考える。例えば、頭髪に関する校則など、市として統一した取組は可能か。

答

各学校の校則は、これまで、生徒の特性や発達段階を考慮しながらつくられてきたものだと思いますので、市として統一したものを示すということは考えていません。それよりも、皆さん自身で問題点を洗い出し、一人一人の個性が尊重され、みんなに受け入れられる新たなルール作りに挑戦してほしいと願っています。



さとう るりこ 議員
佐藤 瑠璃子

買い物の利便性向上について



めぐろ 目黒ほのか 議員

問

コンビニなどが少なく、車を運転できない子どもや高齢者が不便なため、移動販売をするなどして買い物しやすい環境をつくったほうがいいと思うが、市長はどう考えるか。

答

現在実施している移動販売券の交付だけでなくインターネットによる通販やドローンを活用した宅配サービスなど、新たな手法を組み合わせたビジネスの環境づくりや、高齢や障害の方だけでなく移動手段のない方に対しての新たな支援策など、市として様々な取組を進めていくよう検討をしていきます。

陸上競技場建設について

問

地元競技場があれば、コロナ禍でも市内で記録会や小学生の親善大会も行うことができるだろう。市長はどう考えるか。

答

建設後に安定した運営を続けるためには、多くの方の利用が必要であり、使用料などの収入面や、維持管理費などの経費も厳しく管理しなければならず、公的資金を投入して建設したことに對する費用対効果も求められます。そのため、建設については将来的な課題として慎重に検討する必要があると考えています。



ゆもと ゆうと 議員
湯本 悠仁

街灯の設置について



きくち りょうむ 菊地 凌武 議員

問

秋以降、日が短くなった
ときの下校時、道に街灯が
なく、暗くて歩くことができ
ない。道の街灯を増やして
いただきたいと思うが、市
長はどう考えるか。

答

暗い道でのリスク軽減に
向けて街灯の増設は必要で
あると考え、地域からの要
望に基づいて設置してい
きたいと考えています。そ
のためにも、危険に感じ
る箇所等がありましたら、ま
ずは家族の中で話をし
ていただき、地元区長
さんを通じて市役所に
ご相談をお願いします。

生徒の安全について

問

近頃魚沼市でも不審者が
増えている。しかしなぜ
学校では強制的に知らない
人にも笑顔で挨拶しな
さいと教えらるのか。生
徒の帰宅時間が遅く危
険だと思うがどう考
えるか。

答

住民の温かさと親切さが
魚沼市最大の魅力の一つ
であることから、学校教
育においては、「登下校
などでお会いする地域
の方には、進んで挨拶を
しましょう」と教える
ことが基本で不審者
対策にもつながる大切
なことだと考えていま
す。また、帰宅時間
については、各学校
の時間割の工夫など
によって解決しようと
取り組んでいる学校
もあります。



おおしま そうた 大島 颯太 議員

緊張感が漂う議場で、堂々と議事進行をしてくださいました。議長役を務めていただいた、お2人から一言感想をいただきました。



いからし れんと 五十嵐蓮斗 議長

中学生議会に対して、みんなが真剣に集中して取り組んでいて良かったし、自分も議長を通して周りを見て行動する力がついたのでとてもいい経験になりました。



あなざわ なぎと 穴沢 凧人 議長

市議会という自分たちの生活に重要な会に参加させていただきうれしかったです。リハーサルの日や直前など、緊張している場面でも声をかけていただいてリラックスして臨むことができました。



議長役、大変お疲れ様でした！

講評



教育長 樋口健一

自分の生活の周りにある課題や願い、そして魚沼市としての課題など、とても鋭い質問が多く追加質問には私もちよつとたじたじでありました。

本日、中学生議会に参加した皆さんには、これからの未来を担うという大きな役割があります。そのため、一つは、話し合う力をぜひ付けてほしい。何が事実なのかを見極め、その事実に基づいて意見を言う表現する力や、他者の意見を傾聴できる力を身につけてほしいと思っています。

二つ目は、様々な体験をして広い世の中を知ってほしいということです。それは、自分の意見をつくりあげるときに役に立ちますし豊かな発想を支えてくれます。大切な皆さんですので、ぜひ様々な意味での旅をして世界を広げてほしいと願っています。

総務文教委員会報告



10月22日・11月17日・12月13日に委員会を開催した。

1 審査事件

議案第109号・114号・116号

※原案可決するものと決定。

2 調査事件

① 旧庁舎利活用及び公共施設再編について

社会福祉協議会の本部機能については、小出ボランティアセンター内に置き移動は行わない。また、地域の活動拠点については当面継続させる。

都市構造再編集中支援事業については、旧まちづくり交付金事業で本市すでに策定済みである立地適正化計画に基づいて、旧小出庁舎跡地を仮称生涯学習センター、現在の小出郷図書館をにぎわいの館（仮称）として整備したい。

問 パッケージ一体で整備したいとのことだが、補助率についてはどうか。

答 国と市で50%の割合。

② 魚沼市立保育園等再編計画（案）及び第二期子ども子育て支援事業計

画の見直しについて

問 子ども子育て会議では、この再編計画の修正案のほかになにか質問はなかったか。

答 この計画見直しに至った新規私立保育園の開設等、新たな民間進出意向があった場合、市はどのように考えているかという質問があった。

③ コミュニティスクール推進事業について

市内全域の展開に向けて各学校区で地域の皆さん、保護者、学校教職員等対象に地域説明会を開催しているところである。

問 この事業についてまだ浸透していないと思うがその点についてどう考えているか。

答 説明会においても保護者の参加者も少なく、まだ浸透していないと認識している。これからの課題であると考えている。

④ 入広瀬小学校について

2022年度末で閉校し、23年度から須原小学校と統合する答申書を検討委員会が教育長に提出したことの説明を受け、質疑を行った。

⑤ 既存庁舎の利活用の進捗について報告を受けた。

⑥ 第3次魚沼市男女共同参画推進計画の総括について報告を受けた。

⑦ 魚沼市図書館構想について概要、スケジュールについて説明を受け、質疑を行った。

⑧ 小出郷文化会館・堀之内体育館の大規模改修について説明を受け、質疑を行った。



仮称生涯学習センターの建設が予定される旧小出庁舎

産業厚生委員会報告



10月26日・11月10日・12月14日に委員会を開催した。

1 審査事件

請願第5号

コロナ禍での米価下落対策と生活困窮者への食料支援策を講じ、食料自給率の向上を求める意見書の提出について

問 前回の定例会でも同じ請願団体から請願書が出されていたが、今回の内容とどう違うのか。

答 前回は生活困窮者への食料支援を中心に求めていたが、今回は政府の対応や国内の状況を鑑みて、米価下落対策及び食料自給率の向上等を加えている。

※質疑、討論、採決の結果、賛成少数で不採択とすべきものと決定した。

議案第110号・113号・117号・121号

※原案可決するものと決定。

2 調査事件

① 介護人材確保について

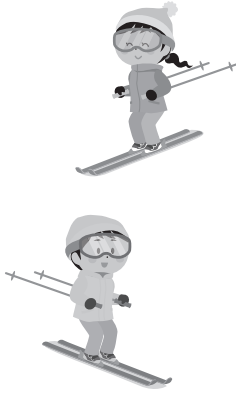
介護事業者のアンケートを参考に、介護職員の処遇改善や新規人材確保支援など令和4年度から新たに創設したいとする支援事業案について説明を受け、質疑を行った。

② 開業支援の拡充について

市内医師不足解消の取組として昨年度創設した開業支援補助金制度の拡充を検討しているとの報告を受け、質疑を行った。

③ スキー場について

市内各スキー場運営事業者から提出を受けた事業計画書について説明を受け、質疑を行った。市に対し、これまで同様の支援継続や施設改修の要望が多く、委員からは新たな財源の見通し、収益改善の具体策が乏しく、計画書の再提出を求める厳しい意見があった。また、今後も引き続き調査を継続することとした。



④ 小出島地内発生通信障害及び停電事故について

工事発注者である魚沼市ガス水道局長より謝罪と事故被害状況、その後の対応等について報告を受けた。

⑤ 流域下水道（堀之内1号幹線）のルート変更について

県が実施する事業の、四日町ポンプ場から破間川を横断する送水管ルートについて工事の概要説明を受けた。

⑥ 新型コロナウイルス接種による健康被害について

市の予防接種調査委員会において、新型コロナウイルス接種後の健康被害申請を3件受理した。その対応や、その後の健康状況について報告を受け、質疑を行った。

⑦ 特養あぶるま苑 大規模改修スケジュール（案）について

施設老朽化にともなう屋根防水、冷暖房設備、居室インターホン設備などの大規模改修のスケジュール案が示され、質疑を行った。

⑧ 魚沼市在宅介護サービスセンター「ひまわり」について

施設指定管理者と施設譲渡について協議したいが、その前提に施設老朽化にともなう大規模修繕等をどうするかなど検討を進めているとの報告を受け、質疑を行った。

⑨ 特別養護老人ホームへの種別変更について

市内の複数の介護事業者から、現有施設の一部を特別養護老人ホームへ種別変更したいとの意向が報告された。今後、各事業者において許認可手続きが必要。

⑩ 魚沼市観光振興計画（案）について

現在、市が年度内に策定を進めている魚沼市観光振興計画及び同計画アクションプラン、策定スケジュール等について詳細な説明を受け、質疑を行った。今後、パブリックコメントなどの手続きを経て成案となるが、決定前に委員会で再度調査することとした。

⑪ 寿和温泉露天風呂棟改修について

委員会では、すでに現地調査をしたが、その後地元区長等から出され

た要望を反映した改修計画変更内容が示され、質疑を行った。市では、設計業務委託を補正予算に計上した。

3 現地調査（10月26日・11月10日）

① 国道17号浦佐バイパス（虫野く大浦地内）、四日町排水ポンプ場（福）魚沼更生福祉会またたびの家、須原スキー場索道保安施設、寿和温泉を視察し、（一社）魚沼ものづくり振興協議会（Ubig）役員と意見交換を行った。

現地調査の総括として、各現場の工事進捗状況、完了状況、事業効果、今後の計画などの確認を行った。



四日町排水ポンプ場



有機センター脱臭設備

② 魚沼市有機センター(脱臭設備)舟山地内にある魚沼市有機センターの臭気対策として試験的に設置したオゾン脱臭設備を視察し、その効果を確認した。委員からは早期の導入を望む声が多く聞かれた。



タブレット及びペーパーレス会議システムについての研修

議会改革の取組の一環として、タブレット及びペーパーレス会議の研修を3回(10月18日、11月24日、12月13日)行い、今後タブレットの導入・ペーパーレス化に向けた検討を進める。

議会基本条例の検証と見直しについて
平成26年4月に制定された、魚沼市議会の最高規範である魚沼市議会基本条例の検証と見直しに着手し、今後必要に応じて改正等に向けた検討を進める。
議会のタブレット導入・ペーパーレス化について

議会運営委員会報告

議会 TOPICS

心温まるひとときを 『なごみCAFE&クラフトショップHAPPY』オープン

12月8日、市議会定例会の休憩時間を利用して、小出特別支援学校高等部の生徒さんによる『なごみカフェ』と『クラフトショップHAPPY』が本庁舎にオープンしました。

今回が今年度初の校外実習ということでしたが、笑顔で、「ご注文はお決まりですか?」「お待ちいたしました」「コーヒーひとつお願いします」接客も内部での伝え方も、声の大きさを意識したそうで、とても丁寧な対応をしていただきました。目指している、「訪れた人にゆったりできるカフェ」その通りの“なごみの時間”を提供していただきました。

当日は、作業製品の販売会も開催。さをり織のカバンや廃油処理に便利な油吸い取りパック、お皿等が大好評でした。

生徒の皆さん、心温まる素敵な時間をありがとうございました。



声を大切に



B グループ【医療・福祉】

- 公共交通協議会の意見の吸い上げについて
 - ・審議会の委員が地域の皆さんに知らせめ伝える方法がない。
 - ・地区の自治会長の意見を集約できるように、市が仕組みを考えて欲しい。
- 市民センターについて
 - ・全ての手続きが市民センターでできないか。
- 特別養護老人ホームについて
 - ・堀之内病院の所に50床を実現できないか。
- 温水プールについて
 - ・温水プールは介護予防、リハビリに適している。1年中運動できる施設として市に要望する。

○旧原小学校(の今後)について

・20年間、タイケン学園に管理委託していて、今年が返還の年。市で地域を巻き込んで話をしてほしい。

○憩いの家、旧子育て支援センターについて

・憩いの家のことも含め地域住民が職員とともに協議する場がほしい。



D グループ【まちづくり・地域づくり】

- 地域づくりの原点を
 - ・地域を元気にする活動、伝統行事の重要性。
 - ・高齢者の力を発揮する場づくり。
 - ・地域内での世代間交流の必要性。



○安全・安心な地域づくり

・過去の災害に学び、安心・安全な防災体制づくり。

○まちづくりの仕組みづくりを

・議員も交えたまちづくりの仕組みづくり検討会の実施。

○人口減少・少子高齢化問題に本気で

・人口減少や高齢化社会での問題点の明確化と解決へ。
 ・市民、議員を交えた具体策の検討会の実施。
 ・集落の維持問題。

○旧町村時代からの脱却

・国道17号に魚沼市役所表示看板の設置。
 ・施設等の名称の改変を。

○今ある制度の有効活用を

・コミュニティ協議会の在り方。
 ・地域おこし協力隊の推進。

令和3年第2回議会報告会 ～市民の声を聞く会～

みなさんからの

11月4日、魚沼市議会では開かれた議会を目指し、「市民の声を聞く会」（議会報告会）を堀之内公民館で開催しました。9月定例会での報告の後、初めての試みとし4グループに分かれた意見交換会を行い、参加者の皆さまから多くのご意見をお寄せいただきました。

いただいた貴重なご意見は、今後、各担当委員会で協議し、今後の市政運営に反映していくよう取り組んでまいります。

Aグループ【経済(商・工・農・観光)】

○コロナ関連課題について

- 来年度のコロナ支援はあるのか。
- 申請方法・周知については漏れのないよう徹底して欲しい。(時間のゆとりを持って)

○悪臭問題について

- 公害と捉えず、畜産振興の側面から考え発展的に捉えるべきでは。

○経済維持発展について

- 人口減を踏まえた、経済維持発展に必要なことは。

○工業系予算について

- 商工費における工業系の予算増について。

○産業振興について

- 農福連携を検証してもらいたい。
- 働き手の確保を進めて欲しい。

○人材確保について

- 外部人材も大事だが、地元中学生に向けた起業の勉強を行わないか。
- 企業の求める人材と、働く場を求める人とのギャップがある。



Cグループ【教育・子育て】

○教育費用の補助について

- 現在英語検定の初回だけ1/2の補助をしているが、検定に失敗した生徒のことを思えば2回、3回と助成すべきではないか。



○通学路について

- 堀之内山の手地区の道路(通学路)が狭く、交通量も多いので道路改良して道幅を広げることではないか。
- 堀之内地区の国道17号とJRの地下道は気持ち悪く、不審者がいても逃げることができないので子どもを通らせたくない。

○学校給食へ魚沼産食材の提供について

- 魚沼にコシヒカリ以外の山菜などの多様な食材があることを子どもたちに食育として教えてもらいたい。

○スイミングスクールへの送迎について

- 小出のスイミングがなくなってしまったので、子どもを小千谷のスイミングに通わせているが、送迎が大変。市がバスを走らせてくれたらいいと思う。

市民の声

魚沼の除雪は魅力的



大橋山
浅井正人さん

約10年前、親の実家の魚沼市に帰ってきました。私は生まれも育ちも長岡市。盆と正月に、おばあちゃんちに来るとい感じでした。おばあちゃんちは道から玄關までの雪の下り階段。踏切も下って渡ってまた登る。道を歩く時は電線に気を付ける。車は国道沿いの車庫を借りて家まで歩く。正月に魚沼に来た時はこれが当たり前でした。それはそれで子どもながらに楽しみでもありました。10年前帰ってきたらどうでしょう。長岡から山に向かつて帰るといのに、どんだん道に雪がなくなっていく！雪壁にガードレールが透けて見える！雪のせいで道が細くならない！これは感動ものでした。友人に自慢したいくらいに。「雪がこう降りるんだから、除雪が綺麗で当たり前ですよ！」いやいや当たり前ではないんです！こんなにも除雪隊がいる所なんてほかにない！除雪された道路の光景は、まちがいなく地域の魅力です！春は山菜・新緑、秋はキノコ・紅葉。その時期は、こちらに出かけてくださる市外の方もいらつしやいます。冬になると、スコップ隊しかきません（笑）スキー場もなく、雪を楽しむ所が限られています。魚沼市の中でも、屈指の豪雪地帯。この雪をまた、除雪の技術を何とか生かし、冬でも魅力のある地域になればと思います。と冬になると思うんだよな。

子どもたちと挨拶交わして15年



小出島
井口幸吉さん

小学校の子どもたちの登下校時の交通事故や各種事件の未然防止に役立てばとボランティアで活動しているのが「青空見守隊」です。始めは組織などなかったのですが、今では立派な組織もでき、暑さ寒さにも負けず皆さん頑張っています。なによりうれしいのは6年生が卒業する時「6年間見守ってくれてありがとうございました」と丁寧に挨拶されると思わず目頭が熱くなり目が一杯汗をかいてしまいます。また、卒業式終了後花束を持ってわざわざ挨拶にきてくださった親子もありました。4月にはピカピカの1年生が登校してきます。元気な子、未だ馴れない子いろいろですが、子どもたちとジャンケンしながら励ましてやるのも楽しみの一つです。子どもたちの明るい笑顔は「地域の宝」「国の宝」です。子どもたちの笑顔に元気ももらいながらも少し頑張ってみたいと思っています。

議会を傍聴してみませんか



市議会議場は魚沼市役所本庁舎3階にあります。傍聴の手続きは、受付用紙に氏名等を記入するだけです。お気軽においでください。

学校・各種団体の場合は事前にご連絡ください。

定例会は年4回（2月、6月、9月、12月）開かれます。

このほかに、必要に応じて臨時会が開かれます。

日程は、市報お知らせ版、ホームページでお知らせしています。

わが校自慢

湯之谷中学校は、合唱に熱心に取り組んでいます。校内合唱コンクールでは、クラス合唱・学年合唱とともに、全校生徒で『ふるさと』を混声三部合唱で歌いました。また、音楽部は、「NHK全国音楽コンクール」で、9年連続で県大会に出場しています。湯中自慢の合唱を、これからも受け継いでいきたいです。



3年生学年合唱「大地讃頌」

あとがき

昨年の12月20日、国会で過去最大となる補正予算が成立した。2022年度当初予算案も新型コロナウイルスウィルス禍で一般会計歳出総額は107兆円を超えて、過去最大となる見通しだ。多くの国債が発行され、コロナ終息後の日本の財政を心配する声が聞かれる中、自党内に、経済学者ケインズの流れをくむMMT（現代貨幣理論）を背景に財政支出に積極的な「財政政策検討本部」と財政支出に慎重な「財政健全化推進本部」の議論が注目されている。世界恐慌の際にケインズ経済理論を背景にニューディール政策を実施したアメリカが不況から脱したのは歴史の事実である。岸田政権が掲げた「新しい資本主義」「新自由主義からの転換」が経済の語源である経世済民「世の中をよく治めて、人々を苦しみから救うこと」となるらんことを2022年の念頭に祈らん。

（渡辺一美）